

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤 富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

# 排水門で首吊ってやる 怒りの諫早漁民



## 後背地排水対策要求 有明海漁民

6月1日、よみがえれ！有明訴訟の漁業者らは農水省に対し、①来年5月の開門の実施、②排水ポンプの設置、③開門協議会の設置、④後背地（特に諫早市森山地区）の排水不良対策を要請した。農水省は、①開門については最短でも6年以上の期間が必要であること、②アクセスの結論前にポンプの設置はしない、③合意形成もアクセスの結果をまとめてからでないとし、④地元から要望があり現、

在も排水不良があることは知っているとだけ回答し、いずれの事項についても前向きな回答はなかった。

## 開門まで6年以上 漁民に死刑宣告

農水省によると、アクセスに3年、その後、長崎県知事を含む地元の合意、その上で対策工事に3年かかり、諫早干拓排水門の開門までに最短でも6年以上の期間がかかることになる（佐賀地裁判決は3年以内の開門を命じている）。

有明海漁民は「昨年7月の若林農相の開門談話で」どうにかつなぎとめたと思っただが、アクセスに6年以上かかるなんて待てるわけない。「漁民にとっての6年の意味を考へろ」「長崎県知事の言うことは聞けて、漁民の言葉には耳を塞ぐのか」「佐賀地裁判決をどう受け止めているのか」と迫った。これに対し農水省は、佐賀地裁判決について「問題のある判決だ」と述べ、佐賀地裁の3年以内の開門命令に従う意思がないことを明らかにした。

## お前らも6年間給料 なしで生活してみる

漁業者の窮状に耳を塞ぐ農水省の態度に漁業者は「これから6、7年、漁民にどうやって生活しろというのか」「発想を変えれば、来年から開門できる。農水省は発想を変える気はないのか。6年先に漁民が海で生活できていると思っているのか」「お前らも給料もらわんで6年も7年も生活してみろ。」「排水門で首吊ってやる。」と怒りをあらわにした。

## 石破大臣に情報隠す

漁業者らは、諫早干拓の後背地で排水不良に悩まされている森山地区の窮状を訴え、同じ第一次産業に従事する者として農民も漁民も気持ちは同じ。後背地の排水不良対策に直ちに取っかかりを求めた。

この交渉の中で、農水省が石破茂農水大臣に対し、アクセスに3年かかるという話だけを伝え、具体的な開門まで最短でも6年以上の期間がかかることを伝えていなかったことが判明した。石破大臣に正常な政治判断をさせないために農水省が殊更に情報を隠していた疑いが残ると言わざるを得ない。石破大臣は、3月27日の参議院予算委員会で、岩永浩美元農水副大臣の質問に対し「アクセスにいつまでもかかるということがあってはならない」と答弁している。麻生首相も岩永元副大臣の質問に対し「開門調査について速やかに関係者の理解を得にやな

## 防災効果なし【諫早】 説明非公開

諫早市民や長崎県民が諫早干拓に諫早大水害を防ぐ機能があると誤解している問題について、農水省は「排水門に諫早市の被害の大部分を防ぐ効力はない」ことを明確に認めた。しかし、農水省は殊更に長崎県民の誤解を解くことを避け続けており、仁比聡平参議院議員（共産）は「1か月以内に長崎県知事と諫早市長に対して説明することを求めた。」

【諫早干拓事業…防災効果、市全域に及ばぬ 農水省が市長に説明／長崎】（毎日新聞6月18日抜粋）

国営諫早干拓事業（諫干）を巡り、農水省担当者が17日、諫早市の宮本明雄市長を訪問し、諫干の防災効果が市内全域に及ばないことを説明した。市側は「地元では防災機能が市全域に及ばないのは理解しているはず」などと応じた。

今日1日に、開門を求める訴訟の原告弁護団が農水省で「開門調査の実施を検討する環境アクセスメントに際し」詳細な防災効果を地元で改めて説明するべき」と要請したことを受け、農水省農村振興局の担当者3人が訪問。宮本市長ら5人が対応したが、非公開だった。（以下略）

らぬ」と答弁している。